

気胸について

皆さんは、気胸(ききょう)という病を聞いたことがあるでしょうか？
ひとこと言え、**「肺がつぶれてしまう病気」**のことです。

肺というのは、キメが細かいスポンジが薄い皮で包まれたような内臓で、通常は空気で満たされていますが、薄い皮やスポンジの部分に穴が開くと、空気が漏れて肺はつぶれてしまいます。様々な原因が気胸を引き起こしますが、代表的な三つを紹介します。

<自然気胸>

中学生～20歳前後に起こるもので、肺に「肺のう胞」と呼ばれる風船状の病変ができて何かの拍子でそこに穴が開いて発症します。肺のう胞ができる原因は、成長期に骨格の発育に内臓の発育が追い付かず、不完全で弱い部分が残ってしまうことが考えられます。一見原因がなく自然に起きたように見えるので「自然」気胸と呼ばれるようです。一般的に「高身長でやせ形」体型の男性に起こりやすいと言われますが、実際に病気を発症するのはごく一部です。

<続発性気胸>

タバコをたくさん吸い続けて肺がボロボロになる「肺気腫」という病気で発症することがあります。肺気腫は、最近では慢性閉塞性肺疾患(COPD)とも呼ばれ、その病気に引き続いて起こるので「続発性」気胸と呼ばれます。禁煙すれば肺気腫も続発性気胸も防止できるので、「予防できる気胸」です。

<外傷性気胸>

転落事故や交通事故などで胸部を強く打った時、肋骨が折れ肺に刺さり、穴が開いて気胸になってしまう場合です。多くは出血を伴い、重傷であることが多いです。

以上、三つの代表的な気胸を紹介しましたが、共通する症状は、「呼吸困難、咳、胸痛」の三つです。それぞれの症状は時間の経過とともに重症化し、最悪の場合「緊張性気胸」といって、肺から漏れ出た空気が心臓や血管を圧迫してショック状態を引き起こすケースもあります。気になる症状があった場合は、できるだけ早く医療機関を受診して診察を受けることが重要になります。



常陸大宮済生会病院

呼吸器科

岡崎 洋雄 先生

